

(令和3年9月試験研究業務月報)

試験研究課題：画像等を活用した丸太情報の見える化と木材流通のスマート化

情報

第39回日本木材加工技術協会^{※1}年次大会で優秀ポスター賞を受賞

京都府産木材の利用拡大及び供給量増加・安定供給が求められる中、当センターでは、ICT技術を活かした流通の合理化と丸太生産の低コスト化を目指した取組を行っています。具体的には、はい積みされた丸太の画像をもとに本数・径級・材積を解析する「木材検収アプリ」と、丸太段階で製材品の強度等級を推定する「強度推定アプリ」の開発に取り組んでいます。

今回、9月29日～30日に開催されました標記年次大会において、アプリの現場導入に向けた取組状況を報告しましたところ、その内容が認められ優秀ポスター賞を受賞^{※2}しました。

なお、年次大会は新型コロナウイルス感染症拡大防止の観点からオンラインでの開催となりましたが、コアタイムにおいて関心がある参加者から多数の質問もあり、別途情報交換も依頼されるなど、今後の研究の広がりや弾みをつけることができました。



発表したポスター



コアタイム(オンライン)での説明の様子

※1:公益社団法人日本木材加工技術協会は、日本木材学会と並び、木材に関する学術の振興と技術の向上等を目的として、1948年に設立された団体です。

※2:アプリの活用を想定した木材流通の合理化とコスト削減効果の検証結果を報告した、日本木材学会年次大会(本年3月開催)に続いての受賞となりました。